

平成28年司法試験 合格体験記

平成27年度修了（既修コース）三好 瑛理華

11期既修の三好瑛理華と申します。香川県出身で、熊本大学法学部を卒業後、岡山大学法科大学院に進学し、修了後1回目の司法試験で無事合格することができました。

以下では、来年度以降の受験生の皆様に向けて、私が司法試験を通じて実感したことをお話ししたいと思います。

私が司法試験を通じて実感したことは、司法試験合格までの日々は、弱い自分との戦いであるということです。法科大学院入学から司法試験の初回受験まで、3年ないし2年とその期間は長いですが、結果を出さなければいけないゴールの日は決まっています。そのような状況下で、毎日毎日机に向かってしていると、遊びに行きたいといった様々な誘惑に負けそうになります。また、勉強がはかどらなかつたりすると、もう勉強をやめたいと思う日もあります。

しかし、そのたびに自分の気持ちと向き合って、この程度で心が折れるのでは法曹としては不向きだと自分に言い聞かせ、将来の自分を想像することで、気力を奮い立たせることができました。自分だけでは立ち直れないときは、家族や友人が明るく励ましてくれました。応援してくれるたくさんの人の想いに応えるためにも、1回で合格しようという気持ちが、今回の合格につながったのだと思います。

司法試験に合格するまでの生活の中で、辛くて苦しいことはたくさんありました。しかし、その経験があったからこそ、努力が報われて合格したときの喜びは忘れられないし、支えてくれる人のありがたさを実感することができました。辛くて苦しい経験も、日が経てば笑える日が来ますし、自分の成長にとって必要な出来事だったと実感する日が来ます。合格すると二度と受けられない司法試験を満喫しようというぐらいの気持ちで、様々な経験をしてください。

最後になりましたが、司法試験の合格まで、ご指導頂いた先生方、学習環境を整えてくださった職員の方々、明るく励ましてくれた友人に、心からお礼申し上げます。今後も、皆様への感謝の気持ちを忘れずに、地域社会に貢献できる法曹になれるよう努力したいと思います。